

平成 22 年 11 月 10 日

福島大学協同組合ネットワーク研究所の概要

1. 名称：福島大学協同組合ネットワーク研究所
(Institute for Cooperative Networks, Fukushima University)
2. 所在地：福島大学
3. 設立：2009 年 12 月 8 日 (任意団体)、2010 年 4 月 1 日 (正式団体)
4. 研究テーマ：農商工観事業連携及び協同組合間協同による地域社会の持続的発展に関する研究
5. 研究員：
研究分担者 16 名
連携研究員 4 名
(福島県農協中央会、福島県漁連、福島県森連、福島県生協連)
研究補助者 1 名
6. 研究計画：
本プロジェクトは、地元の協同組合と共同し、必要に応じて地方自治体と連携しつつ、社会科学、自然科学などのさまざまな学問分野から、事業連携、協同組合間協同による地域社会の持続的発展に関する研究活動を行う。具体的には、事業連携、協同組合間協同による地域社会の持続的発展に関する研究として、農協、漁協、森林組合、生協の現状分析及び課題析出を行なう。協同組合間協同の有効性、理論的意味づけを行った上で、具体的な事業モデルとして、農商工連携・観光クラスターとしての展開可能性を分析・検討する。対象は福島県の地域及び協同組合組織である。協同組合間協同および組織経営に関する教育研修プログラムの開発と実施を行なう。
7. 研究期間：2010 年 4 月～2015 年 3 月
8. 連絡先
〒960-1296 福島市金谷川 1 番地 福島大学
所長 高瀬 雅男(福島大学行政政策学類 教授)
Tel/Fax : 024-548-8319 E-Mail : a013@ipc.fukushima-u.ac.jp
事務局長 小山 良太(福島大学経済経営学類 准教授)
Tel/Fax : 024-548-8387 E-Mail : koyama@econ.fukushima-u.ac.jp

絆で創る!!ふくしまSTYLE

地産地消と協同組合の役割

福島県で生活するとなんでも揃う、食卓の野菜、魚、穀類から調味料、油、加工品まですべてを福島県産で賄える地域であることを一つの資源あるいは業態として捉え、「ふくしまSTYLE」として提案していきます。その具体化について、地産地消・域内加工、農工商連携、六次産業化、資源循環をキーワードに「新たな協同の創造」=「絆づくり」が求められています。協同組合の役割とは何か、どのような商品づくりができるのか、「ふくしまSTYLE」の取り組み方向について共に考えていきましょう。

とき 2010年11月15日(月) 10:00~17:30

ところ コラッセふくしま多目的ホール

福島市三河南町 1-20

JR福島駅(東北新幹線、東北本線、奥羽本線)西口より徒歩3分

東北自動車道福島西IC、飯坂ICから車で約15分

駐車場 コラッセふくしま有料駐車場利用可

(30分まで無料、以降30分毎100円)



基調講演 地産地消と協同組合間協同の実践課題

講師 太田原高昭氏(北海道地域農業研究所顧問、北海道大学名誉教授)

事例報告 北海道における農協・漁協・森林組合・生協の事業連携

講師 坂爪 浩史氏(北海道大学農学部食料農業市場学講座准教授)

実践報告 「県」「農」「浜」「森」の取り組み

総合討論 パネルディスカッション

座長 高瀬 雅男氏(福島大学協同組合ネットワーク研究所所長)

パネラー 松岡 公明氏(財団法人協同組合経営研究所常務理事)

尾高 恵美氏(農林中金総合研究所主事研究員)

大川原けい子氏(JA福島女性部協議会会長)

熊谷 純一氏(福島県生活協同組合連合会会長)

申し合わせ、「農」「浜」「森」の創るプロジェクトメンバー発表

主催 福島大学協同組合ネットワーク研究所・地産地消ふくしまネット

共催 食料・農業・農村問題県民会議

後援 福島県・協同組合経営研究所・農業農協問題研究所福島県支部

絆で創る!!ふくしま STYLE - 地消地産と協同組合の役割 -

趣旨：

福島県はなんでも取れるが特産品がないと良く指摘されます。お土産一つとっても薄皮饅頭などがありますが全国的な知名度では下位であり、多様性も乏しいのが現状です。しかも福島県で生活する中で、意外と県内産品を県内で食べることが出来ません。小名浜の秋刀魚や相馬のホッキ貝など福島市内のスーパーで恒常的に購入することは難しい状況です。また、福島県の木材を積極的に利用した福島住宅の展開など、地域のニーズに合わせた流通システム、地域資源の活用方法などを具体的に考える必要があります。その具体化には、協同組合間協同が必要です。先進地域の北海道などは、農協、生協、漁協、森林組合が連携して、様々な商品開発を行なっています。実需者、量販店、飲食店、地域の生活者にどのように地元産の農林水産物を提供するか、いま協同組合陣営に問われている最大の課題です。

地域資源といった場合、地域ブランド形成や6次産業化に寄与する何らかの原材料や商品を想定してしまいがちで、実際に福島県の地域政策上もこの手の議論に終始することが多い状況です。その際、福島県には全国一になるような品目がない(米、モモ、キュウリなど2,3位の品目が多い)点を欠点として指摘されることがあります。地域の資源は単品や単一のイメージだけではなく、多様性やそれによる組み合わせ自体を地域資源と考えられないかと考えます。特化した品目はないが何でも揃う生産構造であったり、それを組み合わせる(加工品の多様性や店頭での品揃え)ことの出来る連携のあり方自体というように。福島県は何でも作れるが売りになる商品がないと言われてきました。逆に、福島県で生活するとなんでも揃う、食卓の野菜、魚、穀類から調味料、油、加工品まですべてを福島県産で賄える地域であることを一つの資源として捉えられないかと考えています。それを「ふくしま STYLE」として提案できないかと考えます。ライフスタイルを提案した上で、その需要に応えるべく、「地消」「地産」、域内加工を進めていければと考えています。その具体的な形が協同組合間連携で進められる商品だと思えます。例えば、お歳暮、お中元を、福島県産の木箱にいれ、中身は農産物、水産物の詰め合わせ、それを生協で販売するなど、様々なやり方が考えられないか、その具体的な運動と商品開発、事業連携を進めていこうというのが本シンポジウムの最大の狙いです。

福島大学協同組合ネットワーク研究所

本研究所は、おそらく全国で初めて大学に設置された協同組合研究所です。本研究所の研究テーマは「農商工観事業連携及び協同組合間協同による地域社会の持続的発展に関する研究」です。このたび「消費者・生活者・生産者・事業者の協同組合が、自主的・主体的に共同し・・・健康で・明るく・持続可能な地域社会づくり」をめざす地産地消ふくしまネットと共同で、「絆で創る!!ふくしま STYLE」というシンポジウム(11月15日10時～、コラッセふくしま)を開催することになりました。地元の大学と地元の協同組合によるニュービジネスモデルの探求の第一歩です。多くのみなさまのご来場をお願いします。

(所長 福島大学行政政策学類教授 高瀬雅男)

絆で創る!! ふくしま STYLE - 地産地消と協同組合の役割 -

会場: コラッセふくしま3F多目的ホール

11/15(月) 10:00-17:00

総合司会 小山良太 福島大学

10:00 開催 挨拶

10:15 基調講演 地産地消と協同組合間協同の実践課題

太田原高昭 北海道地域農業研究所顧問、北海道大学名誉教授

11:15 北海道における農協・漁協・森林組合・生協の事業連携

坂爪浩史 北海道大学農学部食料農業市場学講座 准教授

12:45-13:30 昼食(福島地産地消弁当)

13:30-13:10 実践報告(各 25 分)

農の取り組み: JA新ふくしま

浜の取り組み: 相馬双葉漁協

森の取り組み: (財)きのこ振興センター

福島県の取り組み: 6次化創業塾

15:10-15:20 休憩

15:20-17:00 総合討論 パネルディスカッション

座長: 高瀬雅男氏(福島大学協同組合ネットワーク研究所所長)

パネラー: 松岡公明氏(財団法人協同組合経営研究所常務理事)

尾高恵美氏(農林中金総合研究所)

大川原けい子氏(JA福島女性部協議会会長)

熊谷純一氏(福島県生活協同組合連合会会長)

17:00-17:30

申し合わせ

「農」「浜」「森」の創るプロジェクトメンバー発表